TOTO

インテリア・バー（コンテンポラリタイプ）　YHR型

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

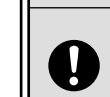
1 安全上の注意（安全のために必ずお守りください）

取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

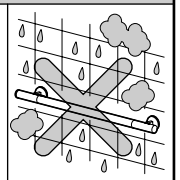
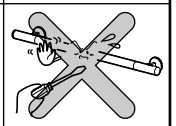
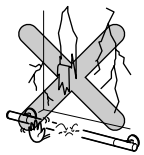
●この説明書では商品を安全に正しく取り付けていただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表　示	意　味
⚠注意	この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害または物的損害が発生する可能性があることを示しています。

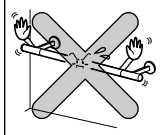
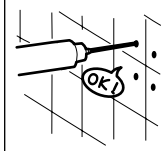
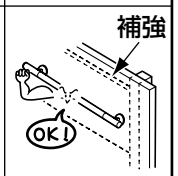
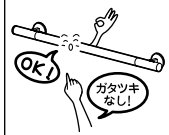
●お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

	は、してはいけない「禁止」内容です。 左図は、「分解禁止」を示します。
	は、必ず実行していただく「強制」内容です。 左図は、「必ず実行」を示します。

⚠ 注　意

禁止	**天然木タイプの手すりは、屋外や浴室などの、水が掛かったり湿気が多い場所には設置しない また、下地および商品を水にぬらさない** 部材が腐食することで、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。	
分解禁止	**修理技術者以外の人は絶対に分解したり、修理・改造は行わない** 故障の原因になります。	
必ず実行	**必ず強度のある壁・建築構造体に取り付ける 壁自体に強度がない場合は厚み12mm以上の合板または、同等以上の下地に取り付けるか、別売の後付補強板を設ける** 土壁・石膏ボード壁などの強度のない壁に直接取り付けると、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。	

⚠ 注　意

必ず実行	**下記品番は、必ず縦向きに取り付ける** 横向きに取り付けて使用すると、手すりが外れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。 YHR600W1,YHR600W2	
	トイレなどの水まわりに使用する際は、取り付ける穴の周囲に必ずシーリング剤を塗布する シーリング剤を塗布しないと、壁裏へ水が浸入し、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。	
	必ず同梱のタッピンねじまたは当社指定の固定金具を使用する 同梱のタッピンねじまたは当社指定の固定金具を使用しないと、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。	
	各下地の取付方法をよく読み、十分な下地の厚さ、および補強があることを確認する 下地に十分な厚み・補強がないと、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。	
	取り付け完了後、手すりにガタツキがないことを確認する 手すりにガタツキがあると、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。	

2 取り付け前に

取り付け前の注意

●手すりを取り付ける壁に**十分な強度がある**ことを確認してください。

●**天然木タイプの手すりは、屋外や浴室などの、水が掛かったり湿気が多い場所には取り付けない**でください。

部材が腐食することで、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。

●光電センサー付き商品と手すりを組み合わせる場合には、**センサーが手すりを感知しない**ように取り付けてください。

なお、光電センサー付き商品と手すり取付位置は光電センサー付き商品の説明書または設計施工資料集などを参照してください。

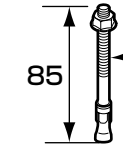
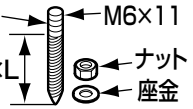
●固定方法は**建物の構造に応じて適切な方法を選んで**ください。

手すりには、木下地用・軽量鉄骨下地用のタッピンねじ(φ4.5×45)を同梱しています。コンクリート下地、コンクリートブロック下地、トイレブースの場合については別途固定金具をご注文ください。
固定金具必要個数は「3 固定金具(別売品)」を参照してください。
※掲載以外の固定方法については、当社各支社・支店、営業所へお問い合わせください。

YHR600W2は、同梱のタッピンねじ(φ4.5×45)にて木下地(壁仕上げ面がタイルの場合を除く)に取り付けてください。
壁仕上げ面がタイルの場合は、タイルが破損するおそれがあります。

3 固定金具(別売品)

〈固定金具一覧表〉

品　番	固定方法	形　状	セット内訳
T110D3R	アンカーボルト固定		アンカーボルト/4本
T110D26	プラグ固定		樹脂プラグ/20個
T110D34(L=50) T110D35(L=30)	ハンガーボルト固定		ハンガーボルト/4本 座金・ナット/各4個

〈固定金具(別売品)必要個数〉

T110D3R(アンカーボルト4本入り)、T110D26(樹脂プラグ20個入り)、T110D34・35(ハンガーボルト4本入り)は、手すりのねじ本数に応じてご注文ください。ねじの本数は、I型の場合4本、L型の場合6本です。

品名・品番 ＼ 下地(固定方法)			木下地・軽量鉄骨下地(ハンガーボルト固定)	トイレブース(ハンガーボルト固定) 注2	コンクリートブロック下地(ハンガーボルト+樹脂プラグ固定)	コンクリート下地(アンカーボルト固定)
I型	天然木タイプ	YHR600W	T110D34　注1	T110D35	T110D34 T110D26	T110D3R
		YHR600W1	T110D34　注1	―　注3	T110D34 T110D26	T110D3R
		YHR600W2	―　注3	―　注3	―　注3	―　注3
	ステンレスタイプ	YHR600M,YHR800M YHR600K,YHR800K	T110D34　注1	T110D35	T110D34 T110D26	T110D3R
L型	天然木タイプ	YHR86WL,YHR86WR	T110D34　注1	T110D35	T110D34 T110D26	T110D3R
	ステンレスタイプ	YHR86ML,YHR86MR	T110D34　注1	T110D35	T110D34 T110D26	T110D3R

注1：壁仕上げ面の厚みが15mm以下の場合は、T110D35も使用可能です。
注2：トイレブースの厚み40mm以上の場合のみ使用可能です。なお、事前に補強木を入れておく必要があります。
注3：強度上の理由により、設置できません。

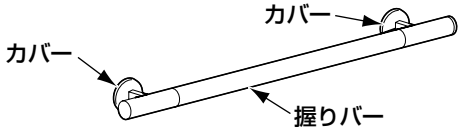
4 部品の確認

次の部品があることを確認してください。

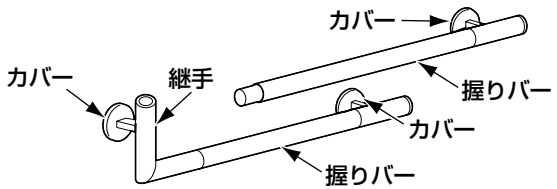
内容

	タッピンねじ			止めねじ	施工説明書	取扱説明書
I 型	天然木タイプ	YHR600W	8本	ー	1部	1部
		YHR600W1				
		YHR600W2	16本			
		YHR800W	8本			
	ステンレスタイプ		8本			
L 型	天然木タイプ		12本	1本		
	ステンレスタイプ		12本	ー		

I 型



L型



※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

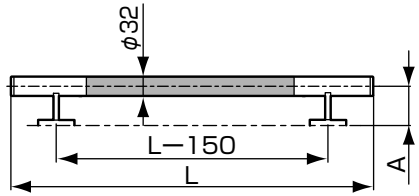
5-1 完成図

天然木タイプ

※図面の ▭ 部は木部分を示しています。

I 型

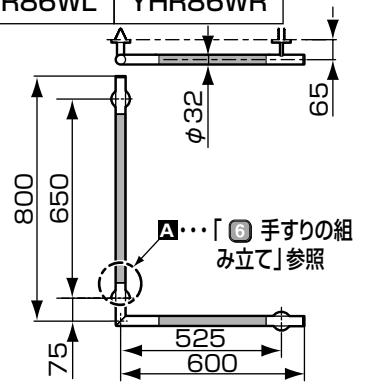
L(mm)	製品番号	A(mm)
600	YHR600W	65
	YHR600W1	130
	YHR600W2	240
800	YHR800W	65



※YHR600W1、YHR600W2は必ず縦向きに取り付けてください。

L型

製品番号	
Lタイプ	Rタイプ
YHR86WL	YHR86WR

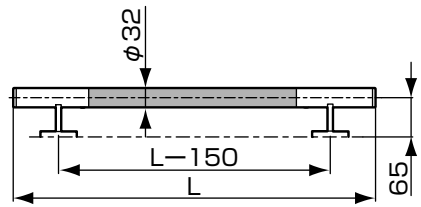


ステンレスタイプ（ショットブラスト仕上げ）

※図面の ▭ 部はショットブラスト仕上げを示しています。

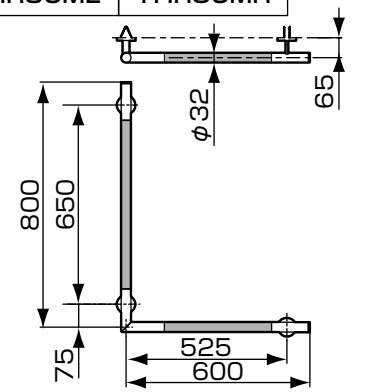
I 型

L(mm)	製品番号
600	YHR600M
800	YHR800M



L型

製品番号	
Lタイプ	Rタイプ
YHR86ML	YHR86MR



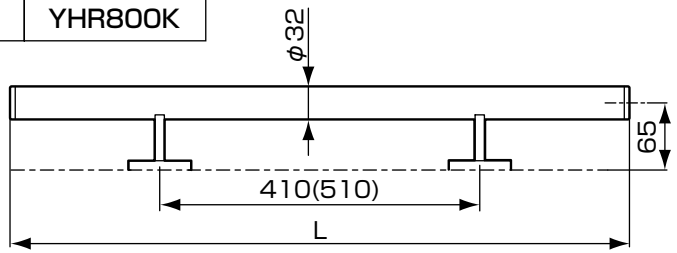
5-2

ステンレスタイプ（鏡面仕上げ）

※全面が鏡面仕上げのステンレス製の握りバーです。

L(mm)	製品番号
600	YHR600K
800	YHR800K

Ⅰ型



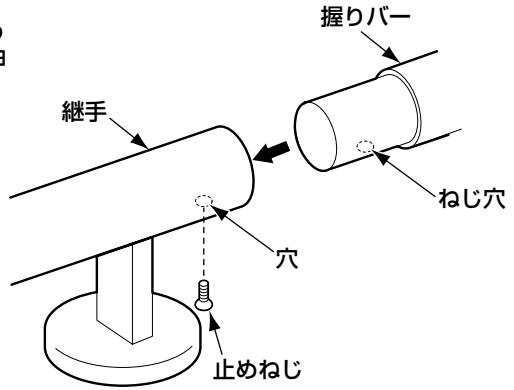
・（　）寸法はYHR800Kの場合

6 手すりの組み立て

[5-1 完成図のAの場合]

①継手の穴に握りバーのねじ穴が合うように握りバーを回しながら強く押し込む。

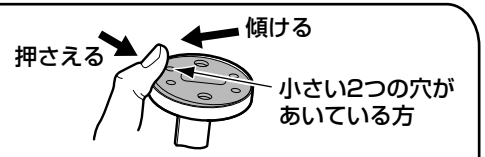
②止めねじでしっかり止める。



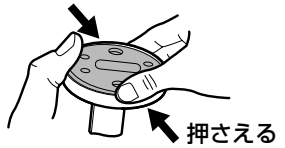
7 施工手順

1. カバーの取り外し

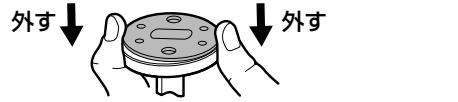
①カバーの縁の片側を押さえ傾ける。



②①を押さえたまま、徐々に周りを押さえ、カバーを外す。



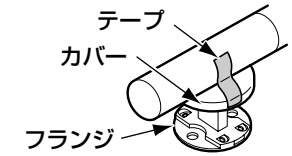
③①と反対側を指で押さえ、カバーを外す。



注 意

カバーを工具で突いたりしないでください。カバーが凹んだり、傷ついたりします。

④カバーをフランジより外す。このとき、図のようにカバーをテープで継手に固定すると施工が容易になります。



※品番によっては、図と現品の形状が一部異なる場合があります。

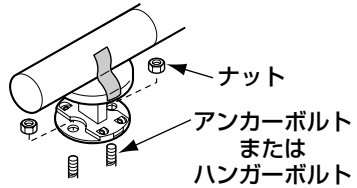
2. 位置決め

手すりの取付位置を決め、穴をあける。
穴あけ方法は「8 手すりの取り付け」の各固定方法を参照してください。

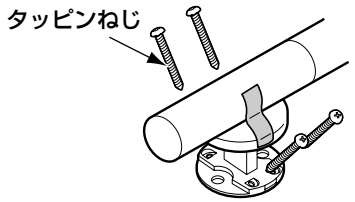
3. 取り付け

①フランジを取付面にねじ止めする。取付方法は「8 手すりの取り付け」の各固定方法を参照してください。

アンカーボルトまたはハンガーボルトで固定する場合



タッピンねじで固定する場合



②カバーをフランジに固定する。

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なる場合があります。

裏面へつづく

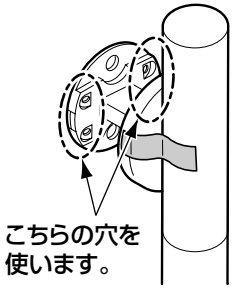
8-1 手すりの取り付け

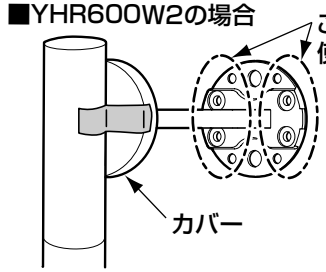
木下地・軽量鉄骨下地：タッピンねじ固定の場合

注 意

木下地で、壁仕上げ面がタイルの場合は、タイルに斜めの通し穴をあけられないので、ハンガーボルト固定で施工してください。

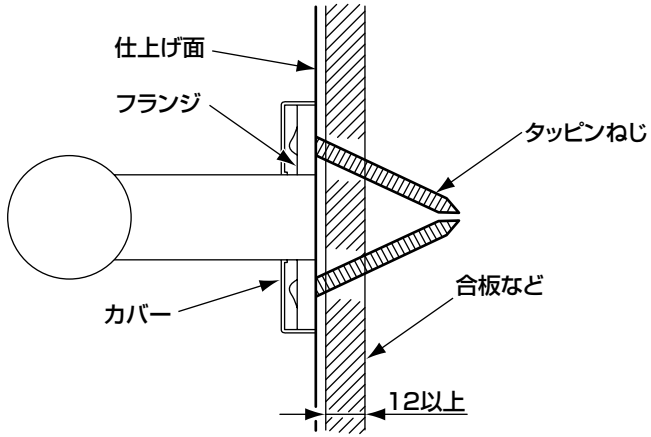
固定金具品番	同梱のタッピンねじ





注 意

カバーを握りバー側に寄せてねじを取り付けてください。
カバーと工具が当たってカバーが凹んだり、傷ついたりすることがあります。

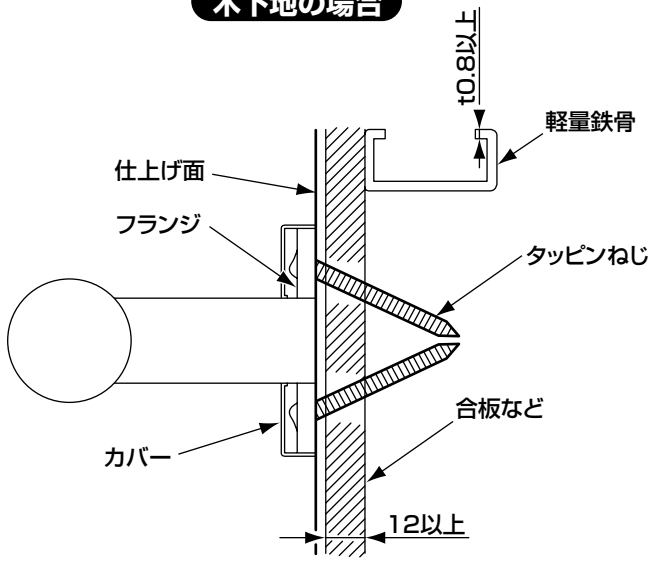


木下地の場合

①事前に手すり取付部に厚さ12mm以上の補強木を取り付ける。注1
②手すりを設置位置に仮固定し、フランジの取付穴に沿ってφ3mmのタッピンねじの下穴を斜めにあける。注2・3
③タッピンねじをフランジの取付穴より取り付ける。注3・4・5
④カバーを仕上げ面に押し付ける。

注 意

注1：厚み12mm以上の合板および補強木を必ず取り付けてください。補強木を取り付けないと、手すりがガタついたり、外れたりすることがあります。
注2：φ3mmの下穴をあけることのできるドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと確実な固定ができないことがあります。
注3：カバーや握りバーを傷つけないように注意してください。
注4：タッピンねじをねじ込む前に、穴の周囲にシーリング剤を必ず塗布してください。
注5：タッピンねじを強く締めすぎて合板・補強木などを破壊しないように注意してください。



軽量鉄骨下地の場合

木下地・トイレブース・軽量鉄骨下地：ハンガーボルト固定の場合

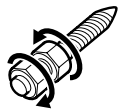
注 意

木下地で、壁仕上げ面がタイルの場合は、タイルに斜めの通し穴をあけられないので、ハンガーボルト固定で施工してください。

固定金具品番	木下地・軽量鉄骨下地：T110D34 トイレブース　　：T110D35

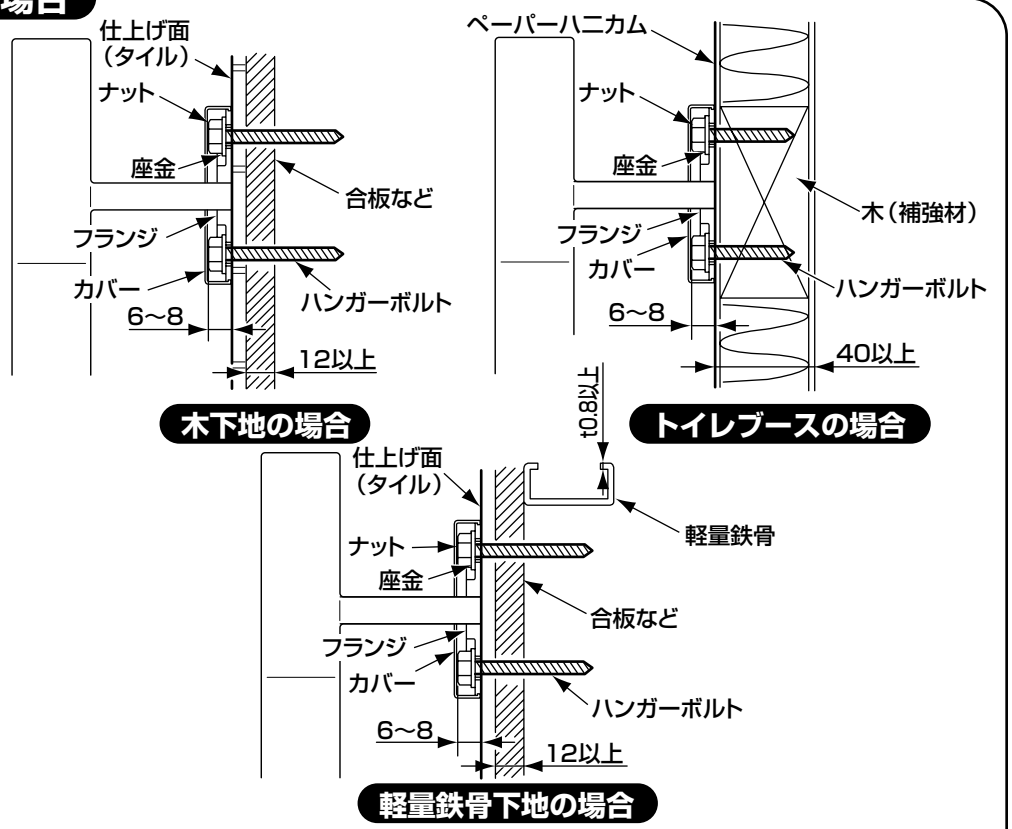
※トイレブースは、厚みが40mm以上の場合のみ商品が取り付けできます。

①事前に手すり取付部に厚さ12mm以上の補強木を取り付ける。注1
②心出ししたあと、φ4mmのハンガーボルトの下穴をあける。注2
（タイルの場合は、タイル部のみφ6.5mmの通し穴をあける。）
③ハンガーボルトに同梱のナット(2個)をダブルナットで固定する(下図参照)。



ナットを2個ねじ込み、お互いのナットを
逆回しして締め付け、固定する。

④③で固定したダブルナットを工具で回し、下穴にハンガーボルトをねじ込む。注3
⑤壁仕上げ面よりボルトの出代が6～8mmの範囲になるように調整する。注4
⑥ダブルナットを取り外す。
⑦手すりのフランジの取付穴をハンガーボルトに通し、座金、ナットで締め付ける。
注3・5
⑧カバーを仕上げ面に押し付ける。



注 意

注1：厚み12mm以上の合板および補強木を必ず取り付けてください。補強木を取り付けないと、手すりがガタついたり、外れたりすることがあります。

注2：φ4mmの下穴をあけることのできるドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと確実な固定ができないことがあります。

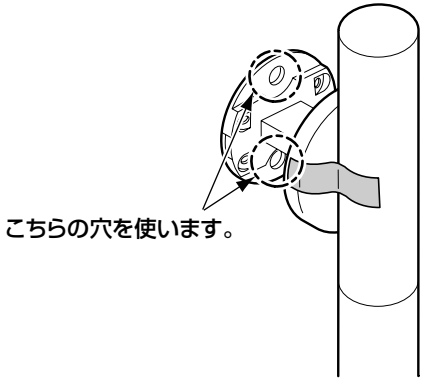
注3：ハンガーボルトをねじ込む前に、穴の周囲にシーリング剤を必ず塗布してください。

注4：ハンガーボルトの出代が壁仕上げ面より規定の範囲となるようにしてください。規定の範囲から外れると、カバーを傷つけたり、カバーまたは手すりが取り付けできないことがあります。

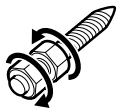
注5：ナットを強く締めすぎてタイルを割らないように注意してください。

コンクリートブロック下地：樹脂プラグ＋ハンガーボルト固定の場合

固定金具品番	T110D26、T110D34

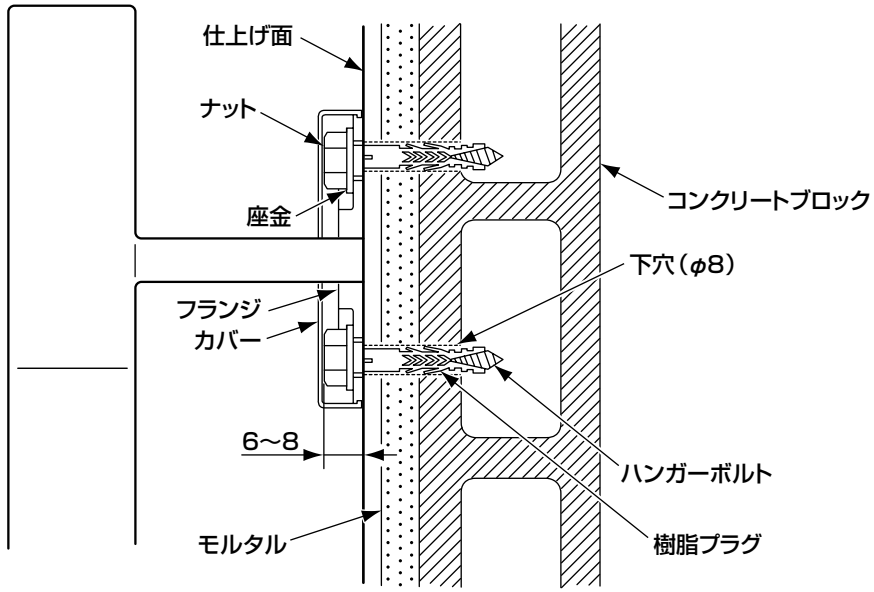


①心出しをしたあと、φ8mm、深さ60mmの樹脂プラグの下穴をあける。注1
②樹脂プラグを下穴に軽く打ち込む。
③ハンガーボルトに同梱のナット(2個)をダブルナットで固定する(下図参照)。



ナットを2個ねじ込み、お互いのナットを
逆回しして締め付け、固定する。

④③で固定したダブルナットを工具で回し、樹脂プラグにハンガーボルトをねじ込む。注2
⑤壁仕上げ面よりボルトの出代が6～8mmの範囲になるように調整する。注3
⑥ダブルナットを取り外す。
⑦手すりのフランジの取付穴をハンガーボルトに通し、座金、ナットで締め付ける。注4
⑧カバーを仕上げ面に押し付ける。



コンクリートブロック下地の場合

注 意

注1：コンクリートにφ8mm、深さ60mmの下穴をあけることのできるドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと確実な固定ができないことがあります。

注2：ハンガーボルトをねじ込む前に、穴の周囲にシーリング剤を必ず塗布してください。

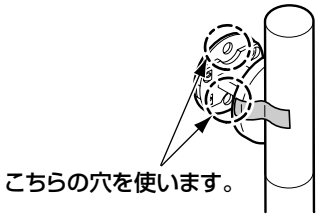
注3：ハンガーボルトの出代が壁仕上げ面より規定の範囲となるようにしてください。規定の範囲から外れると、カバーを傷つけたり、カバーまたは手すりが取り付けできないことがあります。

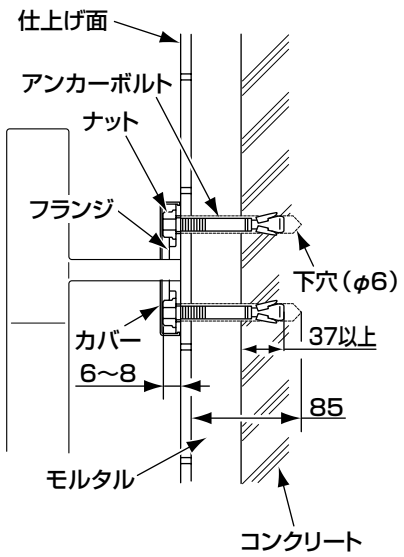
注4：ナットを強く締めすぎてタイルを割らないように注意してください。

8-4

コンクリート下地：アンカーボルト固定の場合

固定金具品番	T110D3R





①心出しをしたあと、φ6mm、深さ85mmのアンカーボルトの下穴をあける。注1

②ナットをアンカーボルト上端より2mm程度ねじ込み、下穴に軽く打ち込む。注2

③アンカーボルトのナットを締め付ける。注3
（これにより、アンカーのクサビが開き、アンカーが抜けなくなります。）

④ナットを外し、フランジの取付穴をアンカーボルトに通し、ナットで締め付ける。
アンカーボルトの出代が壁仕上げ面より6～8mmとなるように調整してください。注4・5

⑤カバーを仕上げ面に押し付ける。

注 意

注1：コンクリートにφ6mm、深さ85mmの下穴をあけることのできるドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと確実な固定ができないことがあります。

注2：アンカーボルトのコンクリートへの埋込代は37mm以上となるようにしてください。37mm未満では手すりが外れたり、壁が壊れたりすることがあります。

注3：アンカーボルトの周囲にシーリング剤を必ず塗布してください。

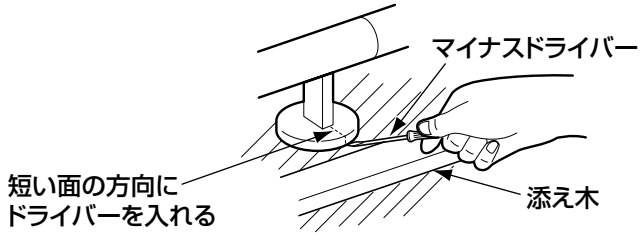
注4：アンカーボルトの出代が壁仕上げ面より規定の範囲となるようにしてください。規定の範囲から外れると、カバーを傷つけたり、カバーまたは手すりが取り付けできないことがあります。

注5：ナットを強く締めすぎてタイルを割らないように注意してください。

※他の施工方法については、当社各支社・支店・営業所へお問い合わせください。

9 カバーの外し方

フランジからカバーを外す場合は、添え木をして壁面とカバーの間にマイナスドライバーを差し込み、カバーを浮かせる。



注 意

ドライバーでカバーや壁面を傷つけないように注意してください。

10 点検項目

取り付けが完了したあと、次の項目を確認してください。

ガタツキの確認

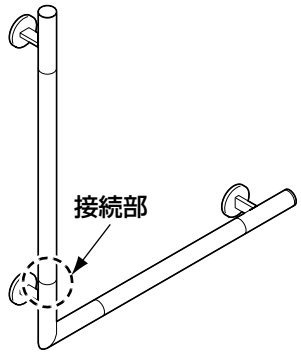
手すりにガタツキがないか確認してください。

接続部はしっかり組み立てていますか？

↳ 6「手すりの組み立て」参照

手すりは壁にしっかり取り付けていますか？

↳ 8「手すりの取り付け」参照



※同梱の取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。

再生紙を使用しています。